

## 施策評価調書 目標年度(27年度)実績

施策コード I-5-(1)

政策体系	施策名	豊かな自然との共生と快適な地域環境の創造	所管部局名	生活環境部	長期総合計画(プラン2005)頁	45
	政策名	恵まれた環境の未来への継承～ごみゼロおいた作戦の推進～	関係部局名	生活環境部、農林水産部、土木建築部		

### 【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④
取組項目	自然や生物多様性の保護・保全と適正利用の推進	快適な地域環境の保全と創造	温泉資源の保護と適正利用の推進	ジオパーク整備の推進

### 【Ⅱ. 目標指標】

指 標	関連する取組No.	基準値		目標年度(27年度)			目標達成度(%)												
		年度	基準値	目標値	実績値	達成度	25	50	75	100	125								
i	特に保護が必要な希少野生動植物の指定数(種)	①	—	—	20	21	105.0%												
ii	大分県自然公園指導員の委嘱数(人)	①	H16	56	70	79	112.9%												
iii	1人あたりの都市公園等面積(m <sup>2</sup> )	②	H16	10.8	13.0	13.2	101.5%												
iv	中山間地域の集落活動(集落協定締結面積割合)(%)	②	H16	75	85.0	80.1	94.2%												
v	漁場再生面積(ha)	②	—	—	19,000	25,310	133.2%												
vi	温泉監視のためのモニタリングを行う源泉数(箇所)	③	H16	9	16	22	137.5%												

### 【Ⅲ. 指標による評価】

評価	達成	理 由 等	平均評価
i	達成	26年度までに21種を指定しており、目標を達成している。また、27年度末には新たな4種の指定について環境審議会から「適当」との答申を得ており、指定案の告示、縦覧を経た後指定の見通しとなるなど、さらなる指定数の増に取り組んでいる。	達成
ii	達成	27年度の大分県自然公園指導員の委嘱数は79名となり、目標を達成した。	
iii	達成	市町村への都市公園整備の促進や国庫補助事業の活用の働きかけにより着実に増加しており、目標を達成した。	
iv	概ね達成	姫島村を除く17市町において、中山間地域等直接支払交付金事業を実施した。1,160の集落協定と22の個別協定が締結され、15,117haの農用地において、農業生産活動の維持等による保全活動が行われたが、27年度からの制度変更に対応できなかった集落等もあり、前年度の実績(85%)より低下した。	
v	達成	県・市町村・漁業協同組合・集落の事業として、海底堆積物の除去および海底耕うん等に取り組んだことにより、目標値を達成した。	
vi	達成	新規モニタリングポイントとして別府市・竹田市の源泉から各1箇所を追加したほか、地熱発電による周辺源泉への影響を調査するため、別府市3箇所・九重町1箇所ですくみ・沸騰泉のモニタリングを開始したこと等により、目標を達成した。	

#### 【Ⅳ. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・自然公園区域図や希少野生動植物の分布図などの環境情報を集約し、地図上に重ねて表示することが可能な「環境地理情報システム」を整備した。一般公開により県民の自然環境の保全意識の向上が図られる。 ・「第2次生物多様性おおいた県戦略」を策定し、今後5年間の目標や基本方針を明確化したことにより、県民の生物多様性保全への理解を深めた。
②	・農業農村多面的機能支援事業の活用により、H27年度は県内に731の共同活動組織が設立され、農地や農業用施設の適切な維持管理が行われた。
③	・温泉法に基づく掘削及び動力装置の許可について、適正に処分を行った(件数:掘削及び増掘許可79件(うち地熱発電22件)、動力装置許可37件)ことにより、温泉資源の保護と利用の両立が図られた。 ・温泉行政の基本方針を示す新たな計画として、「おおいた温泉基本計画」を策定し、有限資源の持続可能な活用に向けた環境整備が図られた。
④	・日本ジオパークに認定された姫島村・豊後大野市のジオパーク活動が持続可能なものとなるよう、ジオパークの情報発信や研究者等の誘致、両ジオパークの取組に対する助成を行った。これにより、本県のジオパークの認知度が高まるとともに、案内看板の整備やジオガイドの養成など、受入体制の整備が促進された。

#### 【Ⅴ. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(27年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価
			総合評価
①	おおいた生物多様性保全・普及啓発事業	27,977	A
②	中山間地域等直接支払事業	1,760,361	A
	農業農村多面的機能支払事業	895,751	A
	(公)港湾環境整備事業	74,489	—
	県営都市公園里山利活用推進事業	4,921	A
④	県営都市公園施設整備事業	171,007	—
	おおいたジオパーク推進事業	39,000	A

#### 【Ⅵ. 施策に対する意見・提言】

○第1回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会 (H27.12) ・新たな仕組みづくり(クラウドファンディングによるトラスト活動など)や情報の収集、ネットワークづくりなど、NPOへの支援などをしっかりと組み込んだ体制作りをお願いしたい。	○第2回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会 (H28.2) ・再生可能エネルギーの取組は大事だが、「推進」と「環境保全」とのバランスを意識して取り組むべき。開発にあたり先祖代々守られてきた土地や自然環境がないがしろにされることを危惧している。豊かな自然環境の中に無機質な人工物が増えていくことが、大分にとって本当に良いことなのかも考えることが必要。
--	--

#### 【Ⅶ. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	成果と今後の施策展開
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境の保全のための取組が進められたものの、本県の豊かな自然や快適な暮らしを将来に継承するためには、県民一人ひとりの環境保全意識のさらなる向上を図り、行政、民間、地域が一体となって保護・保全に取り組む体制づくりの推進が必要である。</li> <li>・中山間地域の農地の保全について県下17市町で取組が行われたことにより、集落機能の維持が図られた。また、県下3離島において漁場や漁業資源の適切な保全管理を行い、漁業の持続的発展、健全な漁村環境の保全、集落機能の維持が図られた。</li> <li>・条例に基づく指定希少野生動植物の保護やNPO等との協働による生物多様性の保全等を推進した。今後はNPOにおける活動者や活動資金獲得の支援、重要な地域の保護等の課題に対応するための新たな環境保全の仕組みを検討する。</li> <li>・温泉のモニタリング結果等に基づく温泉資源の保護を行うとともに、増加する地熱開発に対応するため許可基準を改正するなど、温泉資源の適正利用を推進した。今後も引き続き、地熱開発地域において温泉のモニタリング調査を行い、周辺泉源に与える影響を調査・公表することで、温泉資源の保護と適正利用を推進する。</li> <li>・姫島と豊後大野が日本ジオパークに認定され、両地域においてジオパークを活用した新たな事業が行われるなど、地域振興への活用が進んでいる。今後もジオパーク活動を持続可能なものとするため、両地域が行う取組を支援するとともに、ジオパークの魅力を間断なく情報発信する。</li> </ul>